

口腔感染症学特論

Advanced Course of Oral Infectious Diseases

キーワード

- ① 微生物学
- ② 免疫学
- ③ 口腔感染症
- ④ 歯周病
- ⑤ 全身疾患

授業概要

口腔微生物叢の機能および生物学的活性について理解する。病原細菌の性状と生体防御の仕組みに焦点をあて、口腔感染症について講義を行う。歯科医学、特に微生物学と免疫学の急速な進歩に対応できるように十分に学修し、感染防御と感染症の成り立ちを理解して口腔感染症に対処できる知識を修得する。さらに、口腔領域のみならず全身レベルに目を向け、口腔感染症と全身との関わりについて講義を行う。加えて、微生物学および免疫学的研究について最新の論文を解説しゼミ形式の講義を行う。

授業科目の学修目標

口腔感染症学特論では、口腔微生物叢の機能および生物学的活性について、病原体と生体防御の仕組みについて学修し、感染症の成り立ちと感染防御の知識を修得する。さらに、口腔疾患だけでなく全身への影響に目を向け、口腔感染症と全身疾患との関わりについて理解する。

授業計画

- ① 口腔感染症の基本
 - ・口腔感染症 2コマ 浜田信城
 - ・口腔感染症の疾患と原因 8コマ 浜田信城
- ② 日本細菌学会における倫理規範と検体の取り扱い方の基本 4コマ 浜田信城
- ③ 口腔感染と全身疾患の研究論
 - ・宿主の応答 4コマ 浜田信城
 - ・細菌の病原因子 10コマ 浜田信城
 - ・歯周病と全身疾患 2コマ 浜田信城

教科書および参考書

口腔微生物学 -感染と免疫- 第3版(学建書院) 小川和彦 他編著
戸田新細菌学 (南山堂) 吉田眞一、柳 雄介、吉開泰信 編
Oral Microbiology and Immunology (American Society for Microbiology): Lamont et al.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

口腔感染症と全身との関わりに関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 微生物学の意義を理解し口腔疾患を説明できる。
- ② 細菌学研究領域における倫理規範を理解し応用することができる。
- ③ 微生物学の研究論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	40%	0%	0%	20%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、授業項目の内容について課題を提出する。8%×5回=40%
- ・口頭試問は、授業終了後に行い知識の理解度を判定する。2%×10回=20%

理想的な達成レベルの目安

口腔感染症学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。